

商品情報をはじめ、OCLC に関する様々な情報をご案内致します。

●○Topics○●

全国遺跡報告総覧 WorldCat と連携！

「[全国遺跡報告総覧](#)」は、国立文化財機構奈良文化財研究所が公開しているサービスで、全国の自治体や調査機関が発行した埋蔵文化財の発掘調査報告書の全文データをインターネット上で検索・閲覧することができます。



2017年2月より「全国遺跡報告総覧」の19,000件を超える報告書のメタデータがOCLC OAIsterデータベースに搭載され、WorldCat.org、WorldCat Discovery Services上で検索できるようになりました。

検索結果画面から直接、奈良文化財研究所の「全国遺跡報告総覧」のページに移動して、該当の報告書のPDFをダウンロードすることができます。

[WorldCat 上の「全国遺跡報告総覧」のレコードはこちらから》](#)



●○OCLC メールニュースより○●

Wikipedia に WorldCat の引用情報を自動生成

近年、OCLC は Wikimedia 財団と幾つかのプロジェクトを立ち上げており、2012年には、図書館

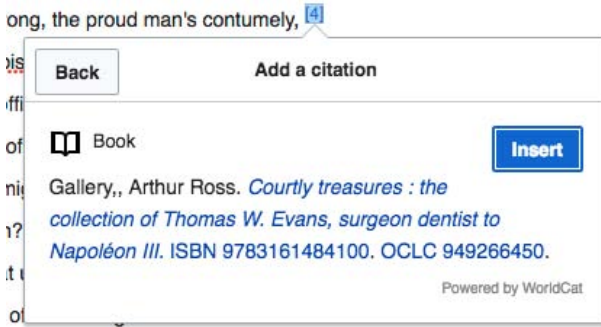
のメタデータが Wikipedia に貢献できる方法を Wikipedia 編集者と共に検討しました。こういった事業の一環として、Wikipedia の編集ツールに WorldCat に登録された書誌情報の引用を、自動で生成する機能が追加されました。

これまで Wikipedia の記事に書誌情報を引用するには、コピー・ペーストや再編集を行う手間がかかっていましたが、Wikipedia の編集機能が OCLC の [WorldCat Search API](#) と連携したことにより、ISBN、ISSN 等の識別番号があれば、WorldCat からの書誌情報引用および WorldCat 書誌へのリンクが自動生成できるようになりました。

この機能を使えば、Wikipedia の記事を編集する際、WorldCat に蓄積された信頼できる引用情報が簡単に



THE WIKIPEDIA LIBRARY



自動で生成された引用情報の例
(Wikimedia のブログより)

参照できるようになり、また読者が興味を持つような資料を手軽に提示することが可能になります。ツール面での連携の他にも、2016年には公共図書館と Wikipedia の連携促進プロジェクトが、The Knight News Challenge の助成対象に認められました。OCLC Research のメリリー・プロフィット氏は、「OCLC と Wikipedia は図書館の信頼できる情報リソースと、世界で最も幅広く使われている情報リソースの寄稿者、編集者たちとを繋いでいきます。」とコメントしています。

[当記事の詳細はこちらから》](#)

カナダ国立図書館・文書館(LAC)が WorldShare Management Services を採用

4月13日、[カナダ国立図書館・文書館](#) (Library and Archives Canada、LAC) が、20年に渡ってカナダの図書館で利用されてきた既存の総合目録システム AMICUS に替わるものとして、[WorldShare Management Services](#) (WMS) を採用すると発表しました。既存のシステムから WMS への入れ替えは今後2年間をかけて行われ、2018年中に完了する予定です。これについて OCLC CEO のスキップ・プリチャード氏は「WMS の採用によって、カナダの文化的遺産が、カナダ国内のみならず世界中からも一層アクセスしやすくなるでしょう。」と述べています。



[当記事の詳細はこちらから》](#)

NATO 防衛大学が WorldShare Management Services を採用

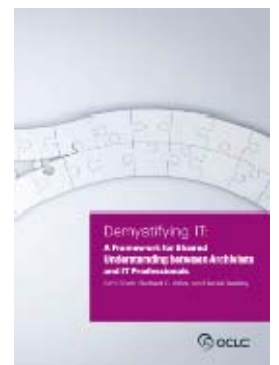


4月18日、ローマにある [NATO 防衛大学](#) (NATO Defense College) が、WorldShare Management Services を採用しました。同大では、NATO に関する資料を集めたポータル「NATSHEL (NATO Sources for Higher Education and Learning)」を構築するプロジェクトを立ち上げており、同プロジェクトの総合目録システムとして WMS を採用することによって、NATO 研究のための科学技術文献を、他の学術研究機関に広く提供することを目指しています。

[当記事の詳細はこちらから》](#)

Demystifying IT : 図書館員が IT 技術者と上手に協働するために

4月27日、OCLC は、図書館員が IT 技術者と効率的に業務を進める為の入門書シリーズ [Demystifying Born Digital series](#) から、新たに [Demystifying IT: A Framework for Shared Understanding between Archivists and IT Professionals](#) というレポートを発表しました。



このレポートでは、IT 技術者のタイプとその提供できるサービス、ソフトウェア開発のプロセスなどを解説しつつ、IT スタッフにならって時間とコストを厳しく管理すること、用語の使い方を統一すること等、図書館員が IT 技術者と協力する為に必要な内容が解説されています。

[全文ダウンロード\(英語\)はこちら](#)》

医中誌、東文研と契約締結

5月31日、OCLC は、[医学中央雑誌刊行会](#)および[東京文化財研究所](#)との連携契約を発表しました。

医学中央雑誌刊行会からは「医中誌 Web」、東京文化財研究所からは「日本美術年鑑」のメタデータが提供され、OCLC のセントラルインデックスに取り込まれます。医中誌 Web に含まれる日本で発行された医学・歯学・薬学・看護学と関連分野の定期刊行物の約 6,000 誌から収録した約 1,000 万件の論文の書誌情報、及び日本国内の美術界の動向をまとめた「日本美術年鑑」の書誌情報が WorldCat DiscoveryServices で近日中に検索可能になる予定です。ご期待ください。

[その他、最近 連携契約を締結したプロバイダはこちらから](#)》

●イベント●

OCLC アジア・パシフィック地域会議が開催されます！

今年 11 月 29 日(水)～30 日(木)の 2 日間、東京の早稲田大学国際会議場で OCLC アジア・パシフィック地域会議が開催されます。

NOV
29

◇ 日程：11 月 29 日(水)、30 日(木)

◆ 会場：早稲田大学国際会議場

7月上旬にイベントのホームページが公開され、詳細なスケジュールやゲストスピーカーが発表される予定です。OCLC 加盟館でなくてもご参加頂けます。会議は毎年各国持ち回りで開催されており、今回は日本で開催されることになりました。

世界の図書館の最新事情にふれることができる年に一度の機会ですので、皆様是非ご参加ください！

[2017 年度地域会議のページはこちら](#)》



昨年度参加者の集合写真



◁ 2016 年度地域会議の様子はこちらの画像から

掲載の商品・サービスに関するお申し込み・お問い合わせは...

株式会社紀伊國屋書店 OCLC センター <http://www.kinokuniya.co.jp/03f/oclc/>

電話:03-6910-0516 ファクス:03-6420-1359 e-mail:oclc@kinokuniya.co.jp までお願い致します。

お預かりした個人情報は、弊社規定の「個人情報取扱方針」<http://www.kinokuniya.co.jp/06f/gaiyo6.htm> に則り取り扱わせて頂きます。